教　育

教育成果の公開 ―卒業研究一覧―

本誌は、教育成果を公開する観点から、学部内での教育活動のうち学術研究に深く関連する部分、すなわち、卒業論文にかかわる情報をここに掲載する。なお、本学部では、優秀な学生を表彰し今後の活躍を期するため、平成13年度に学部長賞「優秀卒業論文賞」を設立した。本年度の審査結果も合わせて掲載する。

2020年度　本学部卒業研究一覧

― 国際学科

	テ　ー　マ
1	現代における黒人差別
2	メジャーリーグで活躍する日本人選手の特徴に関する研究
3	日本の外国人労働者政策の変容と展望 ―韓国・雇用許可制と比較して―
4	瀬戸焼と染付・呉須の歴史について ～中部大学民俗資料博物館企画展「河本礫亭・五郎とシルクロード」に魅せられて～
5	日本のスポーツのグローバル化について ―日本の人気スポーツを中心に―
6	新型コロナウイルスによる影響と被害
7	ガラル地方文字の解読への挑戦 ～英語・日本語からのデコード～
8	バレンタインデーについて ―義理チョコと人間関係―
9	『ハリー・ポッター』とパブリック・スクール
10	長期インターンシップの導入効果 ～東京都と愛知県の導入効果の比較から導く～
11	ヴェネツィアの仮面はなぜ普段着にならなかったのか
12	音楽市場における社会的変遷
13	アメコミヒーローから考えるアメリカの正義の概念
14	厳しい大学受験が韓国社会に及ぼす影響
15	星座の性格 ～黄道十二宮星座・二十八宿から見る～
16	自律型致死兵器システム(LAWS)を規制する国際法
17	日米野球関係
18	人種差別の歴史と問題
19	ヴェネツィアの魅力 コロナの影響を契機として再考する
20	環太平洋地域から幸福を考える ～幸福とは何か～
21	ドーピングにおける国際的背景
22	ビートルズの音楽は日本の音楽を変えたのか ～『リンゴの唄（1945)』から1968年までの楽曲を対象に～
23	シングルマザーの貧困に関する一考察
24	アメリカと人種差別
25	ひきこもりについて
26	映画から読み解く『アベンジャーズ』
27	中国社会における食べ残し問題
28	Red Bull の缶のパッケージは消費者にどのような影響（購買意欲）を与えるか？ ―なぜ Red Bull が選ばれ続けているのか―
29	「爆買い」と訪日中国人の動向
30	滋賀県の長寿要因を探る ―長寿と県民性の関わり―

31　日本版 IR 構想に関する一考察
32　アメリカ人のサッカーに対する価値観
33　高校野球がもたらす選手への影響 ～高校野球経験者の意識アンケート調査から～
34　アメリカ銃社会の考察
35　野球場から観光名所へ ～日本の野球文化とそれまでの歴史～
36　日米野球の格差と NPB の課題
37　日本の化粧の歴史
38　世界各国のキャッシュレス決済事情 ―日本・中国を中心に
39　カンボジアの貧困問題と国際援助
40　お賽銭のキャッシュレス化 ～時代とともに変化する意味を通じて～
41　ペット後進国日本 ―ドイツに学ぶ未来―
42　自衛隊の定員未充足問題について
43　若者の希望 ―現代文化が描く若者の希望―
44　ハリエット・タフマンの生涯 ～奴隷解放への道～
45　疑問詞の限局的用法と広範的用法 ～ “what” “how” の機能と独・仏・伊・西語との比較～
46　ハラール制度の信頼性の確保 ―マレーシアの JAKIM を中心として―
47　若者のクルマ離れについて
48　海洋プラスチックゴミに関する一考察 ～SDGs 目標14の観点から～
49　日韓の子供の祝祭の比較研究
50　日本の幸福観と対人関係の関連性 ～現代におけるネット社会の問題点を知る～
51　日本の教育改革における一考察
52　世界遺産とはどのようなものなのか
53　宗教国家アメリカにおける LGBT
54　日本の「育事」の壁 ～神聖化された母性への見直し～
55　メコン流域圏の貧困対策と経済発展 ―ベトナムとカンボジアに焦点を当てて―
56　NIPPON RUGBY
57　持続可能な開発目標 (SDGs) と日本企業 ～ミズノ株式会社を事例として～
58　台湾に現存する日本時代の建築物活用方法 ～ 紀州庵文學森林を中心に～
59　犬を巡る課題（殺処分を無くすために）
60　キャッシュレス支払いとその技術 ―Felica と QR コードを比較して
61　ソヴィエト連邦における社会主義リアリズムと音楽
62　マンガにおけるオノマトペ ～食べ物系マンガを中心に～
63　旅行業の発展と衰退
64　若者から学ぶ日韓関係の打開策 ―反日感情、若者感情の日韓の相違点について―
65　黒人差別の歴史
66　日米野球比較研究論
67　世界の野球に貢献している日本人 ～イチローの野球人生～
68　一人暮らし高齢者の主観的幸福度をあげるには
69　日本の林業の過疎化と SDGs
70　幻の甲子園
71　ドーピング問題の現状と課題
72　男性が化粧する理由
73　日本における屎尿の処理と利用法
74　各国の犬文化に対する価値観の比較

75 日本と韓国の結婚式および晩婚化・非婚化の相違点
76 私たちに潜むカルト問題
77 日本におけるタトゥーに対する捉え方の変遷 ～偏見から寛容へ～
78 ナチ党の経済政策と国民の支持 ―1933年までの経済政策に焦点を当てて―
79 「かくれキリシタン」は日本特有の宗教観だと言えるのか ―尾張キリシタンの聖像画から学ぶ信仰の形―
80 摂食障害から見えてくる世界観
81 韓国の美容文化における『整形』と『化粧』の境界
82 衣類の大量生産と環境問題 ―過剰生産をいかに止めるか―
83 中国の貧富の差による社会的問題と行方
84 映画『Big Hero6（邦題「ベイマックス」）』の予告映像：日本とアメリカでは何が異なるのか
85 現代の紳士という概念 日本と武士による比較
86 キャッシュレス化の日中比較　QR コード決済を中心に
87 アラジンから見るプリンセス像の変化
88 カンボジアの教育制度
89 海外における日本のアニメーションの影響 ―インドネシアと中国を中心に―
90『チャーリーとチョコレート工場』が伝えたかったこと
91 セウォル号沈没事件に対する韓国社会の評価に関する研究
92 後期ヴェーバーの著作におけるギリシア悲劇的要素 ―古典ギリシアの作品を題材にして―
93 創られたハワイ・イメージ
94 書道の過去と未来
95 犬山の観光政策 ～犬山城を事例として～
96 人が VGM に没入することへの考察 ～世界で人気のある日本のゲーム作品を中心に～
97 アメコミにはなぜ同じようなキャラクターが多いのか マーベルを元に考える
98 レゴランドはどのようにして一貫性のある空間を創り出しているのか
99 観光フリーマップの役割とは何か ～マップから考える～
100 子どもを苦しめる児童労働
101 日中食安全問題について ～社会的危機と行方～
102 生殖補助医療における法的親子関係の国際比較
103 部活動が学生生活に必要か ～運動部参加者のアンケートから～
104 プラスチックゴミ問題の現状と未来へのアイデア
105 差別が作り上げた社会
106 日本におけるカフェ文化 ―日本のカフェの歴史と居心地―
107 カズオ・イシグロ『わたしを離さないで』―人間と臓器の繋がりから生まれる臓器の価値―
108 日本の同性婚について ―パートナーシップ制度から考える―
109 フェアトレードコーヒー ―日本での普及に向けて―
110 おもてなしとホスピタリティ ～留学国での接客経験から考える～
111 温泉文化とは何か ～古代ローマと現代日本の比較を通して～
112 フィリピン経済発展の裏に隠された現状 ～ストリートチルドレンを事例に～
113 日韓関係 ～「反日種族主義」の主張をもとに～
114 韓国の宅配文化の発達 ―デリバリーからネット通販へ―
115「抵抗詩人」尹東柱の生涯と作品に関する研究
116 様々なドラマーの違いについての研究と考察
117 海外留学によるアイデンティティの変容

118 日本の「アニメ」文化と聖地巡礼 ～宗教的繋がりと共に～
119 日本人の育児休業制度に関する研究
120 死生論
121 LGBT 差別と解決をめぐる三か国の取り組みの比較
122 原子力発電所とこれからのエネルギー ～原爆投下と福島第一原発事故から考える日本～
123 近代中国における通信機器の発展と進化
124 人形と人形供養 ～日本人の物の考え方～
125 仮想通貨の将来性　仮想通貨はこれからどうなっていくのか
126 日本のペット殺処分の現状と課題 ～ドイツに学ぶ～

― 国際関係学科

テ　ー　マ
1　アメリカ失業保険制度とホームレス激増の実態
2　日本におけるコンビニの社会的インフラとしての成り立ち
3　児童労働問題 ―日本との関わりについて―

国際関係学部長賞「優秀卒業論文賞」審査結果（2020 年度）

2020 年度　国際関係学部長賞優秀卒業論文賞選考要領

１．賞の種類

(1) 最優秀論文賞：原則として１編

(2) 優秀論文賞　：原則として２編まで

(3) 国際政治経済部門賞・国際社会文化部門賞（以下、「部門賞」と表記）：選考委員会が授賞対象および授賞数を決定する。

２．審査委員会、事務局

審査委員会、事務局は下記のメンバーで構成する。

(1) 学部審査委員長

学部長

(2) 学部審査副委員長

副学部長、学部長補佐

(3) 審査委員

国際学科　８名　（「国際政治経済部門」、「国際社会文化部門」各４名）

(4) 事務局

学部事務室

３．エントリー

(1) 教員はゼミ所属学生の卒業論文を推薦できる。ただし、当該学生に卒論の要約（以下、サマリーと表記）を A4 用紙１枚（1000 字程度）にまとめるよう指導し、事務局に提出させなければならない。

(2) 学生は指導教員に相談する必要なく、自分の意思で応募できる。ただし、応募に際しては、サマリーを A4 用紙１枚（1000 字程度）にまとめて、事務局に提出しなければならない。

(3) 学生はエントリーの際、当該論文の審査を「国際政治経済部門」、「国際社会文化部門」のいずれに委ねるかを選択しなければならない。この選択は、エントリーする学生の学科所属に一切縛られることなく、卒業論文の内容も鑑み、自分の意思により行うことができる。

４．審査委員会の編成、第一次・第二次審査

(1) 審査委員は毎年 12 月の主任会議、教授会の議を経て決定される。

(2) 事務局は卒業論文提出締め切り後、各部門の審査委員に審査依頼を行う。

(3) 審査委員が止むを得ない事情により審査に参加できない場合、速やかに学部審査委員長と副委員長に報告し、判断を仰ぐ事とする。以降の措置については三者に一任されるものとする。

(4) 審査委員は、原則としてエントリーされた全ての自部門学生の審査を担当する。論文を読んだ結果を総合的に判定し、自らが審査したすべての論文に対して順位付けを行い、100 点満点で採

点(採点基準は(5)の通り)、各論文に対する簡単なコメント(評価すべき点、不足している点など)も書き添えた上で、所定の期日までに事務局に報告する。ただし、審査の公平を期すため、審査委員自身が指導した学生の論文があった場合、いずれの部門での審査であっても、当該論文の審査を学生が所属する学科の審査委員長に委ねるものとする。

(5) 論文の採点基準は以下の通りとする(一次・二次審査共通)

100 ～ 90 点：「学部を代表する優秀な卒業論文」として相応しいレベル

89 ～ 80 点：一般的に「優秀な卒業論文」と言いきれるレベル

79 点以下：「優秀な卒業論文」と言えるか疑義が残るレベル

なお、順位との整合性が担保されている限りにおいて、点数については各審査委員に一任される。

(6) 順位付けおよび採点については各審査委員の判断が最優先され、審査委員会構成員を含む他者からの干渉を一切受けない事とする。順位付けにあたっては、審査委員自らの研究・教育経験に基づいた主観に基づき、もっとも優れた論文を 1 位とした後、2 位以下の順位付けを行う。順位および点数については、選考委員会における審査の重要な根拠となるため、たとえ僅差であっても、同位・同点にはせず、必ず差異化をはかることとする。

(7) 各審査委員からの順位付け・採点結果を受け、原則、「各部門における順位の総和の平均値が最も低い論文」を当該部門の最上位の論文とする。しかしながら、(4) ただし書き以降の論文が発生した場合も踏まえ、採点結果の平均値も算出し、部門内最上位確定の判断材料とする。事務局は本作業の際に疑義が生じた場合、速やかに学部審査委員長と副委員長に報告し、本件に関する判断を三者に一任する。

(8) (7) により確定した各部門の最上位の論文 1 編を最優秀論文賞の候補、2 位以下を優秀論文賞または部門賞の候補とする。以上を一次審査とする。

(9) 学部審査委員長、副委員長、審査委員の計 10 名は最優秀論文賞候補 2 編の論文を読んだ結果を総合的に判定し、いずれを最優秀論文にするべきかの自らの判断を下した後、100 点満点で採点(採点基準は(5)の通り)、各論文に対する簡単なコメント(評価すべき点、不足している点など)も書き添えた上で、所定の期日までに事務局に報告する。ただし、審査の公平を期すため、上記 10 名が指導した学生の論文があった場合は、当該論文の審査を学生が提出した同部門の他の審査委員に委ねるものとする。なお、各審査委員がすでに第一次審査にて審査した論文は必ずしも再度読む必要はなく (コメントも省略)、もう一方の論文を読んだ上で、双方の順位付け (必要に応じて点数の変更)、第二次審査で初めて読んだ論文に対してコメントを行う。

(10) 各審査委員からの順位付け・採点結果を受け、原則、機械的に「各部門における順位の総和の平均値が最も低い論文」を最優秀論文とする。しかしながら、(9) ただし書き以降の論文が発生した場合は採点結果の平均値も算出し、これも最優秀論文確定のための判断材料とする。事務局は本作業の際に疑義が生じた場合、速やかに学部審査委員長と副委員長に報告し、本件に関する判断を三者に一任する。

(11) (10) により最優秀論文賞 1 編が決定され、もう一方の論文は優秀論文賞となる。以上を二次審査とする。

5．選考委員会

審査委員長は二次審査終了後、副委員長、審査委員を招集し、選考委員会を開催する。選考委員会は特段の事情無き限り、2月末に卒業判定審議のために開催される教授会と同日の開催とする。選考委員会にて確認・協議・決定する項目は以下の通り。

(1) 第一次・第二次審査の経緯確認

(2)「最優秀論文賞」と「優秀論文賞」1編の確定：第二次審査の結果確認

(3) 上記以外の「優秀論文賞」の有無確認と決定：第一次審査において2位以下となった論文の中で、授賞するに相応しい論文があれば、出席者の協議・確認の後、「優秀論文賞」として選出する。授賞するに相応しい論文が無い場合、当年度の優秀論文賞は上記(2)の1編とする。この段階で選出するのは原則1編とするが、第一次審査担当者の意見も踏まえ、審査委員長の判断により、2編以上の選出も可能とする。

(4)「部門賞」の決定：(3)において「優秀論文賞」とならなかった論文は、原則すべて「部門賞」の対象となり得るが、最終的には第一次審査担当者の意見も踏まえ、審査委員長の判断により、授賞対象および授賞数を決定する。賞の名称は第一次審査の部門名に準じ、「国際政治経済部門賞」・「国際社会文化部門賞」のいずれかとする。

(5) 最優秀論文賞、優秀論文賞の講評担当者の決定

(6) 審査全般に関する講評担当者の決定(部門別・計2名)

(7) 部門賞の講評担当者の決定：ただし、部門賞の授賞数が多数である場合や、担当者選出が困難な場合は、審査委員長の判断により、部門賞の講評を省略することができる。

6．学部内への報告

審査委員長は審査委員会の決定事項を取りまとめ、3月の教授会(2回開催される場合、進級判定・追加卒業判定審議のために開催される前半の教授会)で報告する。

7．本人への通知・発表

学位記授与式当日、国際関係学部長からの表彰をもって発表とする。なお該当者が当日欠席の場合でも、受賞の取り消しは行わない。

8．表彰式および講評の公開

(1) 国際関係学部長から、最優秀論文賞、優秀論文賞、部門賞の順に報告、賞状と記念品の授与を行う。

(2) 講評の読み上げは、最優秀論文賞、優秀論文賞までとする。ただし、学部長の学位記授与式当日のスケジュールに応じて、省略するか、副学部長または学部長補佐に委任することができる。部門賞については、講評がある場合でも読み上げについては省略する。

(3) 審査全般に関する講評については、学位記授与式当日の読み上げは行わず、国際関係学部ホームページへの掲載により公開する。

以上

2020年度「優秀卒業論文賞」審査結果

◆候補論文は８件。その内訳は、国際政治経済部門は２件、国際社会文化部門は６件。一次審査の後、学部審査委員長、副委員長も加わる二次審査を経て、2021年２月26日の学部審査委員会において、下記のとおり最優秀論文賞１件、優秀論文賞１件、部門賞３件が選考され、教授会において承認された。

◆審査委員会の構成員は以下の通りである。

学部審査委員長：中山　紀子(学部長職務代理・副学部長)
学部審査副委員長：澁谷　鎮明(学部長補佐)

国際政治経済部門審査委員：加々美　康彦、岩間　優希、羅　立新、田中　高
国際社会文化部門審査委員：伊藤　裕子、河内　信幸、宗　婷婷、財部　香枝

最優秀論文賞：
「後期ヴェーバーの著作におけるギリシア悲劇的要素 ―古典ギリシアの作品を題材にして―」

優秀論文賞：
「「かくれキリシタン」は日本特有の宗教観だと言えるのか ―尾張キリシタンの聖像画から学ぶ信仰の形―」

部門賞：
＜国際政治経済部門賞＞
「メコン流域圏の貧困対策と経済発展 ―ベトナムとカンボジアに焦点を当てて―」

＜国際社会文化部門賞＞
「滋賀県の長寿要因を探る ―長寿と県民性の関わり―」
「宗教国家アメリカにおけるＬＧＢＴ」

（文責：学部事務室　園田　智子）